



高松市議会 News 第 30 号 香川洋二

★どうする空き家対策

平成 24 年第 3 回定例会に引き続き空き家対策を質問。先日も栗林校区で空き家相談。空き家の増加は地域コミュニティー荒廃へ進む。2013 年 4 月 1 日付で空き家等適正管理条例制定自治体は 211 団体。地方自治体では対応に限界。条例に実効性を持つためには関連法律が必要。昨年自由民主党空き



家対策推進議員連盟が「空き家対策特別措置法案」を提出したが廃案。全国市長

会等の 6 団体は国に対し要望。本市では関連する担当課でチームを組織。今後国の動向に対応する。

★シティープロモーション 本市海外展開企業の協力を

本市 PR のため全国で活躍している著名人や経済人に観光大使を委嘱。この制度を海外で活動している地元企業に拡大する考えを提案。現在本市拠点の企業支店現地法人は 66 社。これらの現地事務所等で本市紹介資料等をおかしてもらいシティープロモーション協力を。

現地事務所が本市の情報発信の役割。当局は企業の意向等を聞き情報発信してゆきたい。在外公館等に対しては youtube 等を通じ海外向け情報を配信しているがより一層情報を配信したいと答弁。

★政務調査報告 (ミャンマー) バガン漆芸技術大学校訪問

平成 25 年 8 月 20 日より 25 日までバンコク及びミャンマー・バガンへ



政務調査。ミャンマーでは同国中央部に位置するバガン市が本市伝統工芸品である蒟醬のルーツ。

訪問先は国立バガン漆芸技術大学。同校副学長はじめ関係者に観光ポス



ター・漆芸書籍等を贈り交流を深めた。今回の訪問は JETRO ミャンマー・バンコク両事務所の協力を得た。また、



同地は 2217 の古寺遺跡が保存されており、インドネシア「ボルボドール」カンボ

ジア「アンコールワット」と並び称される 3 大仏教遺跡の地でも有名。

★蒟醬（キンマ）とは？

本市で蒟醬といえば漆芸品を連想するが、蒟醬は①植物のキンマに由来。



キンマ（学名 Piper betle）はコショウ科コショウ属の蔓性の常緑多年草で、高さ1mほどに成長。東南アジアで広く自生。

②嗜好品としてのキンマ

マはキンマの葉に水で溶いた石灰を塗りピンロウヤシの乾燥種を巻きこれを口に含み噛み、カスは吐き出す。



唾はピンロウジの赤い色に変わり、唾は吐き出す。ピンロウジには薬物の依存性がある。画像2枚はキンマ売りの露天商と嗜好している成人。単価は1個5円位。ピンロウジには発がん性が指摘されており、台湾などでは販売禁止となっている。

③工芸品の蒟醬は嗜好品のキンマを入れる器から発展。日本へは室町時代ミャンマー・タイなどから伝わった。



この蒟醬は嗜好品のキンマを入れる道具として発達して「キンマ」と呼ばれる盒子（ごうし・蓋のある器）漆器となった。一段目が石灰、二段目が乾燥したピンロウジ、底にキンマの葉。

蓋や底にもデザインが施される。また、同地では多くの工房があり、生活に密



着した漆器が生産されている。本市では江戸時代末期玉楮象谷により存清・蒟醬など研究の末独自技法を創案し現在に至っている。左下画像は大学で購入した蒟醬。高さ17cm。価格20400ミャンマーチャット（日本円2040円）。



画像は民間漆器工房での作業場と作業風景。塗や研ぎなどは分業。訪問時には金沢美術工芸大学の教官・学生が



訪問しており本市も県とともにバガンとの交流を考慮すべきと提案したが、色

よい抗弁はなかった。なお、報告書は香川洋二ホームページ「キンマについて（短報）」を参照ください。